



2011年(平成23年)8月2日(火)

第5835号 (購読料金 月額税込み4,300円)



時事通信社

- ◇昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
- ◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
- ◇発行所 東京都中央区銀座5丁目15番8号時事通信社
- ◇郵便番号104-8178
- ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
kousei-dokusha@jiji.com
- ◎時事通信社2011

目次

特集 360病院のがんデータ公表 部位・治療法に特性、比較容易に一国立センター……………2

最低時給、平均736円 小幅の6円引き 上げ一厚労省審議会……………6

新刊図書の中から……………7

事件・事故・裁判—愛知の老人ホーム 捜索/障害考慮の労災認定が確定 ほか……………8

進言(高知県)……………9

1万件増の5.5万件 ほか……………10

地域を支える(岐阜県)……………11

社説拝見 ●7月前期—玄海原発、早期再稼働は困難に……………12

所得制限でなお隔たり—子ども手当 自公に首相不信、民主内にも火種…17

ニュースフラッシュ

福祉・健康—幼稚園へ大型絵本を貸し出し/家事代行で介護の負担軽減 ほか……………18

医療・保健—4歳未満の医療費を無料に/予防ワクチンを無償接種…19

環境・ゴミ—家庭用コージェネに補助/ひも付きスイッチで小まめに消灯……………19

労働・女性—インターンシップ制度を導入/30代前半の経験者採用枠を新設 ほか……………20

岐阜県方式短時間訪問介護

社会福祉法人新生会 名誉理事長・石原美智子



平成二十四年度は介護保険制度の改正の年である。その改正の目玉に「二十四時間地域巡回型訪問サービス」(ネーミングは様々だが)がある。

私たちはたまたま施設も在宅もサービスを創ってきたので、その両方の特徴がよく分かる。

施設介護は、預けた家族は常に介護者が傍にいていてくれて安心と思うかもしれないが、かつての病院の付添いとは違って、既定の配置職員しかない。だから二十四時間のうち、必要な時に必要なだけの介護をしている。

在宅の訪問介護はそれと異なり、一対一で長時間、付添いの如く介護をする。当然、介護保険でそんなに多量には使えないので、一週間に一、二

回しか利用できない。それでは在宅での生活は成り立たないために、施設入居の待機者となる。

私たちは、在宅でも施設と同じように排泄、食事、清拭など行為ごとに短時間、毎日、必要な時に必要なだけ、アセスメントをして訪問するというのを始めた。そのための財源を県に雇用対策

のほうから支援してもらえたので、このサービス形態を「岐阜県方式短時間訪問介護」と命名した。

一回二百円ほどの一割負担で利用できる。この方法で在宅介護を行うと、在宅生活の継続も可能になり、介護保険料も安く済むはずである。

実績を積み重ねるほかに、この方法が実がいいことが分かってきた。先ず、ヘルパーは毎日定期

的に利用者に接することによって信頼関係を築けるし、必要以上のコミュニケーションでお互いに気を使うこともない上、手技が早く上達する。当然、利用者の状態観察も早く、生活の質や本人の状態も改善していく。改善していく姿を見てまた介護の意欲が湧く。本人や家族の安心感も大きい。

もう一つ分かってきたことは、短時間で定期的に入ることによって、利用者の介護に対する理解が深まり、介護保険の上限を超えても介護サービスを使う人が増えることである。身体介護が中心の短時間だけでなく、雇用対策で立ち上げた掃除、洗濯サービスや配食サービスのほか、保険の谷間になる電球の交換や草取り、障子の張り替えなど住民の助け合いであるライフサポーターの育成も進んできた。これこそ、高齢社会の自助、互助、共助、公助の在り方だ、と自負している。

的